

まち・ひと・しごと創生



## 野田村 人口ビジョン

平成 28（2016）年 3 月 策定

令和 8（2026）年 2 月 一部改定



岩手県 野田村



## 目次

1	はじめに.....	1
2	野田村の人口の現状.....	2
	（1）総人口の推移.....	2
	（2）年齢3区分別人口の推移.....	3
	（3）人口ピラミッドの推移.....	4
3	野田村の人口動向の分析.....	5
3-1	人口の動向.....	5
	（1）出生・死亡数、転入・転出数の推移.....	5
	（2）合計特殊出生率の推移.....	6
	（3）性別・年齢別未婚率の推移.....	6
	（4）自然増減と社会増減の推移.....	7
	（5）近年の年齢階級別の人口移動の状況.....	8
3-2	年齢階級別の人口動向分析.....	9
	（1）年齢階級別の人口移動の状況.....	9
	（2）転入転出の状況及び純移動数.....	10
	（3）5歳階級別・性別転入転出数、純移動数の状況.....	13
3-3	産業別就業・雇用に関する人口分析.....	17
4	人口の将来展望.....	19
4-1	目指すべき将来の方向.....	19
	（1）現状と課題の整理.....	19
	（2）目指すべき将来の方向.....	19
4-2	将来人口の推計.....	20
4-3	人口の将来展望.....	21
4-4	人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察.....	23
	（1）産業経済の状況.....	23
	（2）地域の産業における人材（人手）の過不足状況.....	23
	（3）都市構造に関する状況.....	23
	（4）公共サービスに関する状況.....	23
	（5）地域の産業経済に与える影響.....	23
	（6）住民生活に与える影響.....	24
	（7）財政に与える影響.....	24
5	おわりに.....	25



## 1 はじめに

野田村では、人口の減少や少子高齢化、産業の活性化、雇用の創出等の課題に対し、これまでも対策を進めてきたところ。

そのような中、国においては、平成 26 年 11 月に「まち・ひと・しごと創生法」を施行し、同年 12 月には、人口の現状や将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び今後 5 か年の目標や施策の基本的方向等を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。

野田村においては、上記の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、平成 28 年 3 月に「野田村まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）」を策定した。また、その後、令和 5 年には第 2 期総合戦略を策定するなど、人口減少克服と地方創生に向けた取組を合わせて進めてきた。

今般、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）による将来推計人口が公表されたことや、令和 8 年から令和 12 年度を計画期間とする第 3 期総合戦略策定の参考とするため、各種調査結果など最新のデータを基に改めて分析を行い、人口ビジョンを見直すこととしたものである。

本ビジョンは、現時点での人口減少がもたらす影響に関する認識をあらゆる主体の皆様と共有するとともに、今後目指すべき将来の方向を提示し、共に取り組んでいけるよう、人口の現状と将来展望を示したものである。

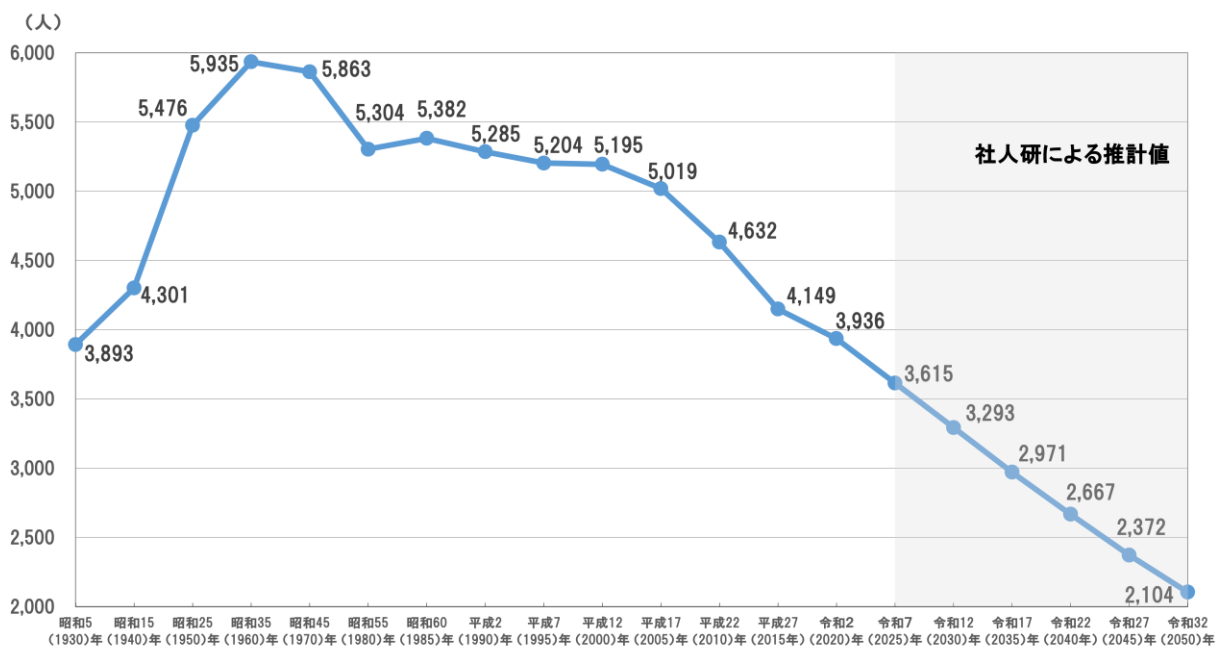
## 2 野田村の人口の現状

### (1) 総人口の推移

本村の人口は、昭和5（1930）年から昭和35（1960）年にかけて大幅に増加し、昭和35（1960）年の5,935人をピークに、その後は減少傾向が続いている。令和2（2020）年には、3,936人まで減少している。

国立社会保障・人口問題研究所の推計では、令和7（2025）年以降も減少傾向が続き、令和32（2050）年には、2,104人まで減少することが予測されている。

図表 総人口の推移



資料：国勢調査（1930～2020年）、国立社会保障・人口問題研究所令和5年12月推計

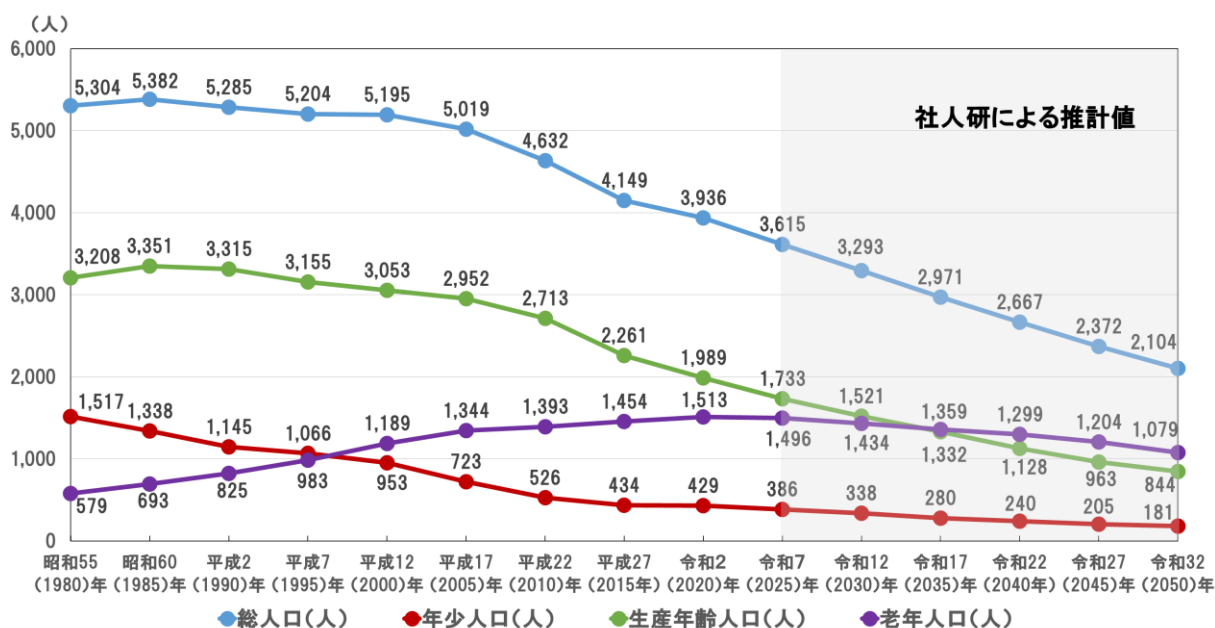
## (2) 年齢3区分別人口の推移

生産年齢人口（15～64歳）は、昭和60（1985）年の3,351人をピークに減少に転じ、令和2（2020）年には1,993人まで減少した。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、減少傾向がさらに続き令和32（2050）年には844人に減少すると予測されている。

年少人口（14歳以下）は、昭和55（1980）年以降減少傾向が続いており、令和2（2020）年に429人と約3分の1以下となっている。推計では、令和7（2025）年以降も減少傾向が継続し、令和32（2050）年には181人まで減少するとされている。

老年人口（65歳以上）は、昭和55（1980）年以降増加傾向にあり、令和2（2020）年には1,514人まで増加しました。推計では、令和2（2020）年をピークに減少傾向に転じ、令和32（2050）年には1,079人になるとされているが、老年人口が生産年齢人口を上回る状況になると予測されている。

図表 年齢3区分別の人口の推移



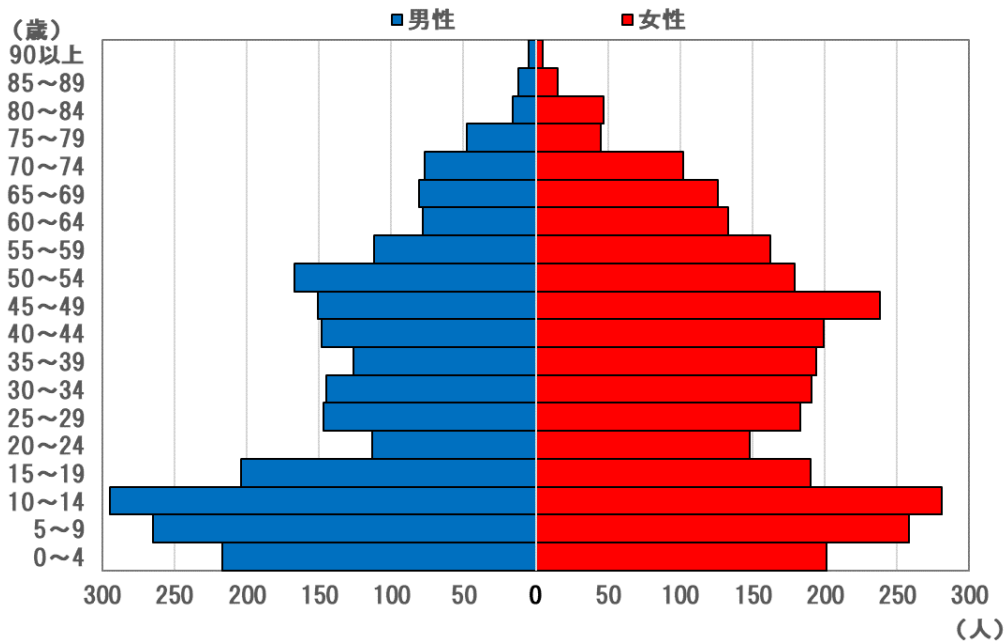
資料：国勢調査（1930～2020年）、国立社会保障・人口問題研究所令和5年12月推計

※令和2年の国勢調査結果においては、年齢不詳（5人）がいるため、「総人口」と「年少人口・生産年齢人口・老年人口の合算値」の値が異なるもの。

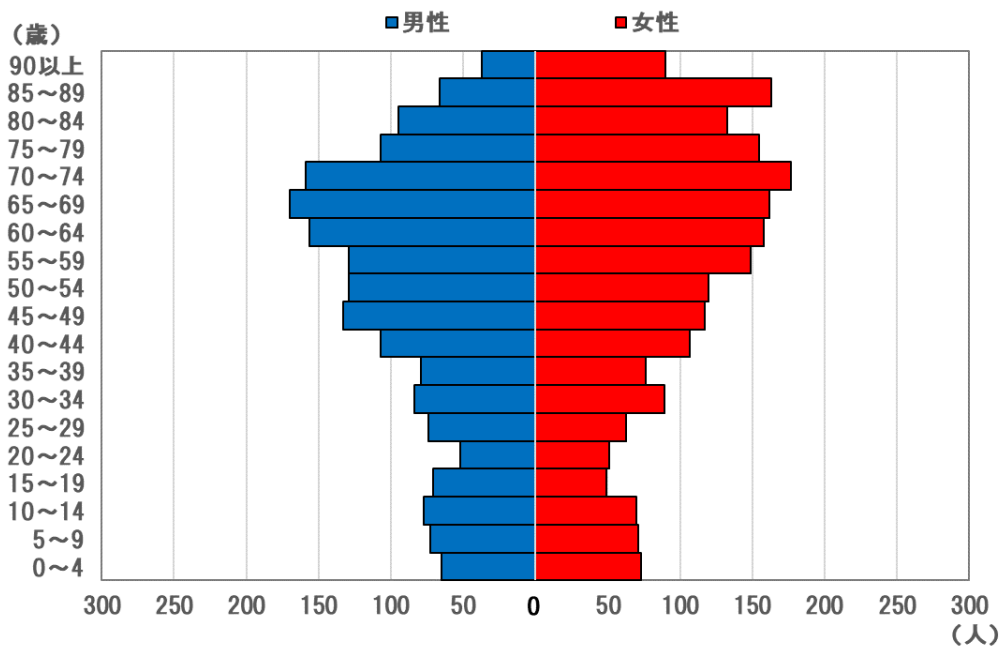
### (3) 人口ピラミッドの推移

人口ピラミッドの推移をみると、昭和 55（1980）年は男女ともに 10～14 歳の人口が最も多く、年少人口が多く老年人口が少ない「ピラミッド型」であった。一方、令和 2（2020）年になると、老年人口が増加し、年少人口が減少している。

図表 人口ピラミッド（昭和 55（1980）年）



図表 人口ピラミッド（令和 2（2020）年）



### 3 野田村の人口動向の分析

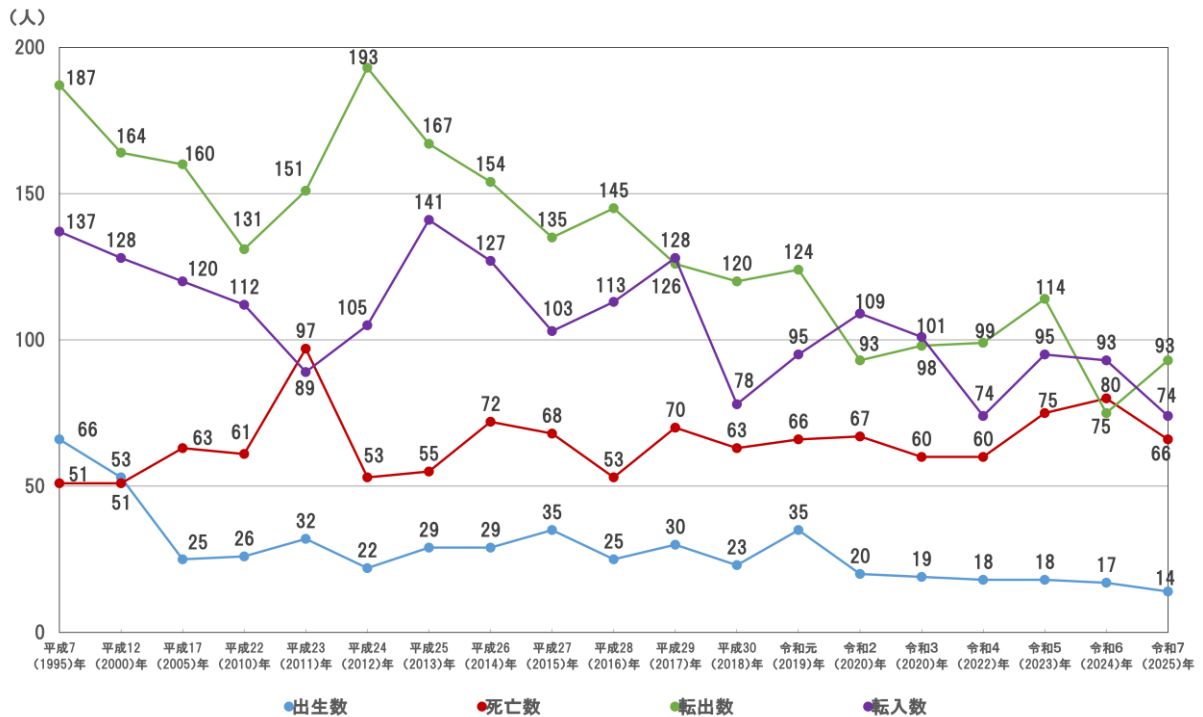
#### 3-1 人口の動向

##### (1) 出生・死亡数、転入・転出数の推移

出生数は、30人前後の水準で推移していたが、近年緩やかな減少傾向にある。死亡数は、平成23(2011)年を除いて、概ね60~70人程度で推移している。年により増減はあるものの、近年は死亡数が出生数を上回っている。

転入数は、長年減少傾向が続き、平成23(2011)年に初めて100人を下回った。その後は一時的に増加傾向に転じていたが、近年は年によって増減はあるものの緩やかな減少傾向にある。転出数は、年によって増減はあるものの減少傾向が続いていたが、100人程度の水準で推移しており、年によって転入数が転出数を上回って推移している。

図表 出生・死亡数、転入・転出数の推移

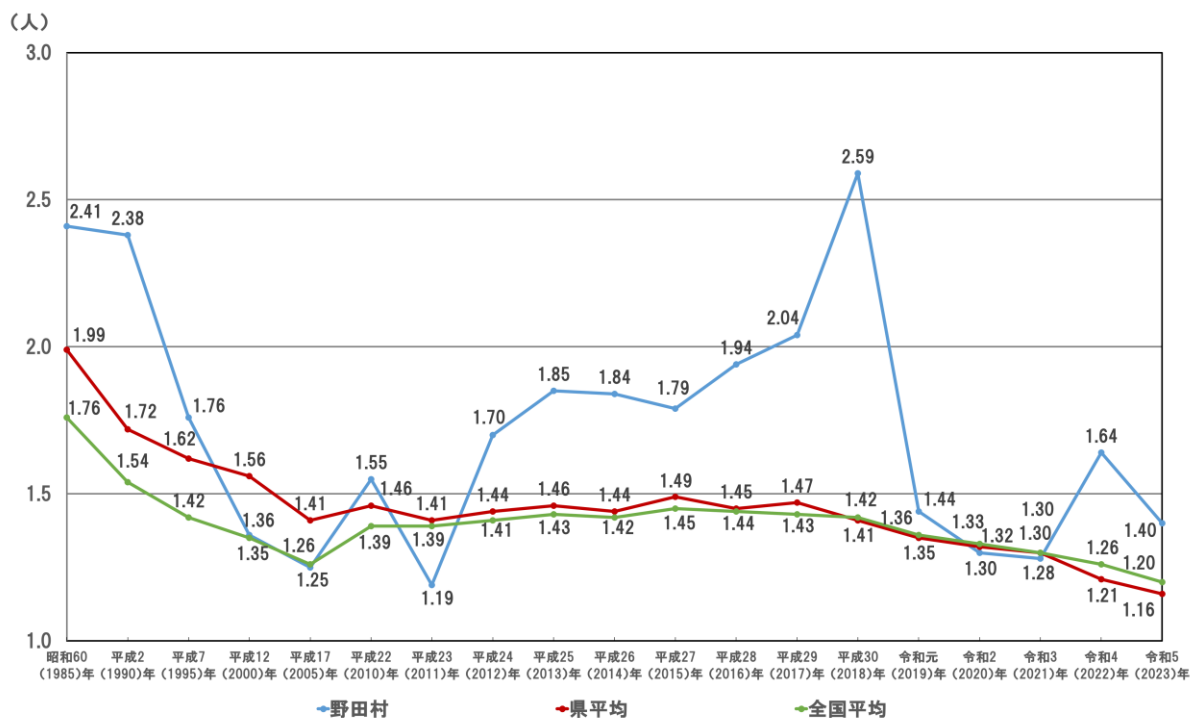


資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

## (2) 合計特殊出生率の推移

本村の合計特殊出生率は、過去約40年間においては昭和60(1985)年の2.41をピークに減少傾向が続いていたが、平成24(2012)年から徐々に上昇し平成30(2018)年に2.59となった。令和元(2019)年以降は減少傾向が続いているが、全国平均及び県平均と比べ高い水準となっている。

図表 合計特殊出生率(昭和60(1985)年～令和5(2023)年)

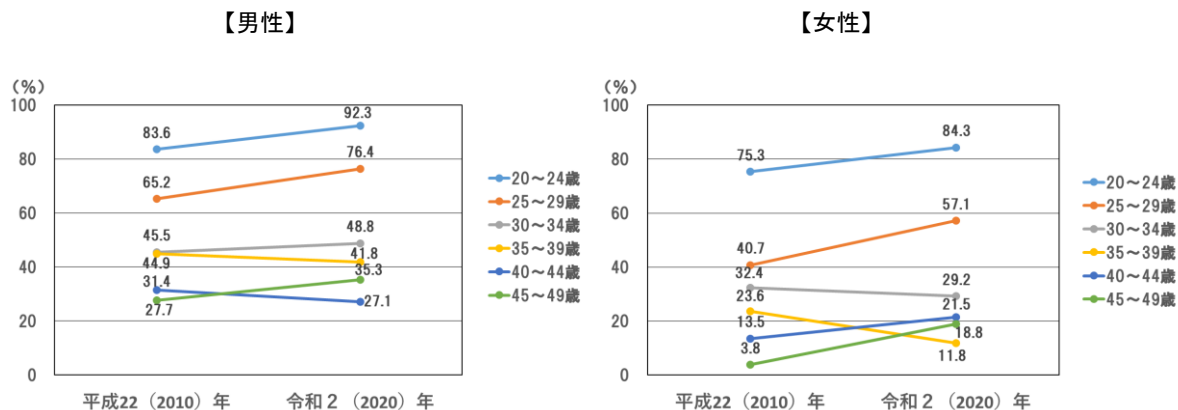


資料：岩手県人口動態統計

## (3) 性別・年齢別未婚率の推移

本村の性別・年齢別未婚率の推移をみると、男性は25～34歳及び45～49歳以上、女性は20～29歳及び40歳以上で未婚率が上昇しており、晩婚化の進行や生涯未婚者が増加しているものと推測できる。

図表 性別・年齢別未婚率の推移

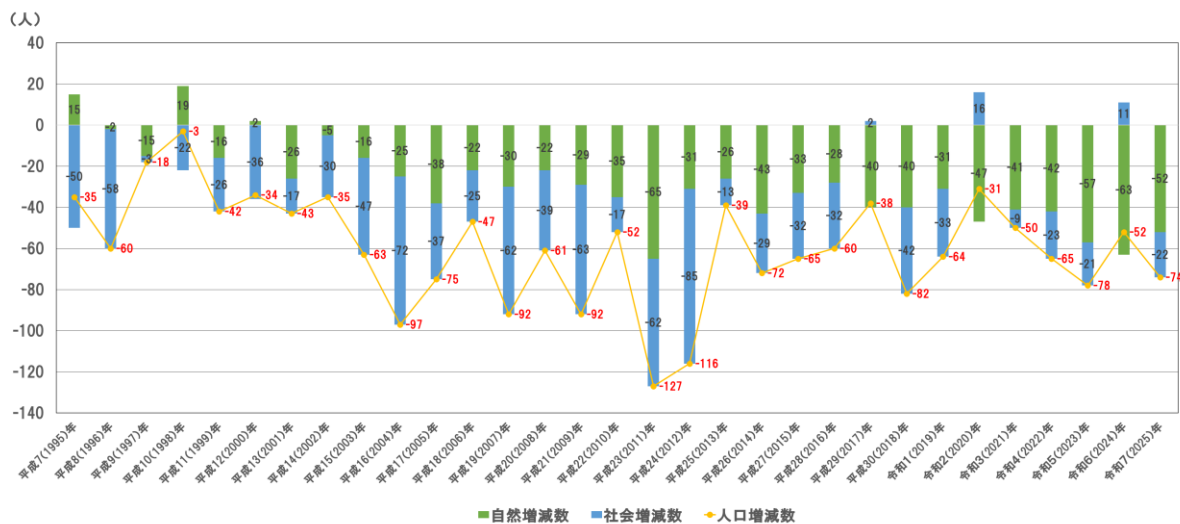


資料：国勢調査

(4) 自然増減と社会増減の推移

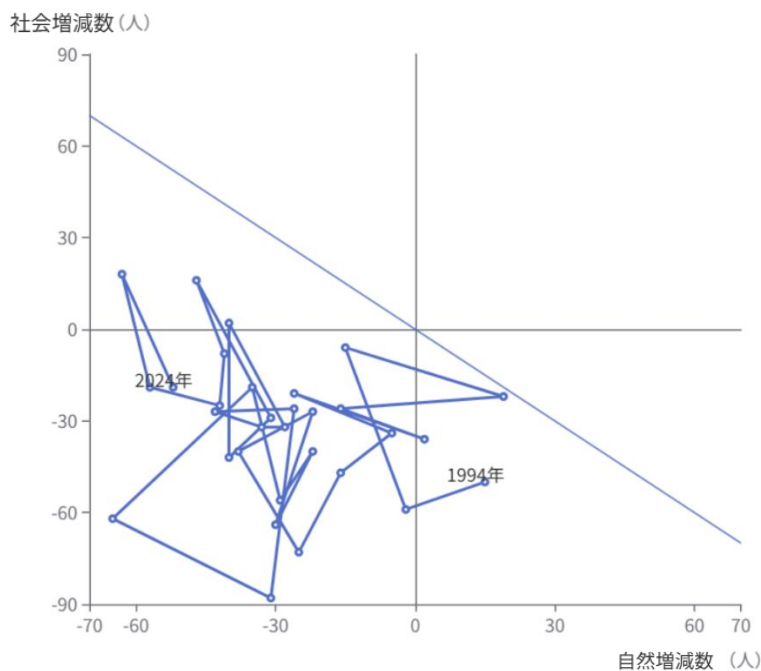
平成 17 (2005) 年以降の自然増減と社会増減の推移をみると、平成 29 (2017) 年、令和 2 (2020) 年及び令和 6 (2024) 年においては、社会増となっているが、その他の期間においては自然減、社会減となっており、人口減少が続いている。

図表 自然増減と社会増減の推移



資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

図表 自然増減と社会増減の推移 (散布図)



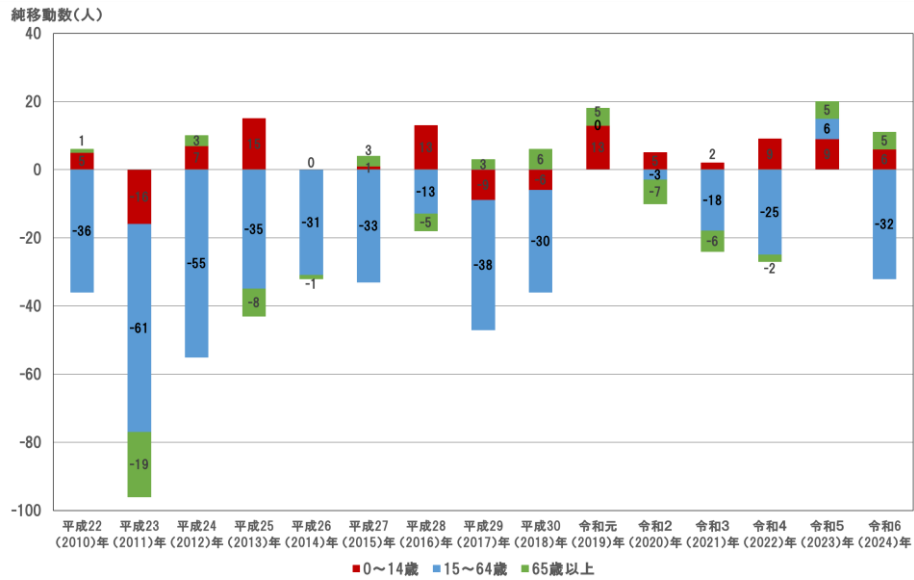
資料：「地域経済分析システム RESAS—人口増減分析」 (<https://resas.go.jp/population-sum/>)

「自然増減・社会増減の推移(散布図)」(出典元：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工)を加工して作成

(5) 近年の年齢階級別の人口移動の状況

近年の人口移動の状況をみると、平成22(2010)年以降、令和元(2019)年及び令和5(2023)年を除いた年において、転出者が転入数を上回る転出超過が続いている。特に、「15～64歳」において大幅な転出超過となっている。

図表 近年の年齢階級別の人口移動の状況



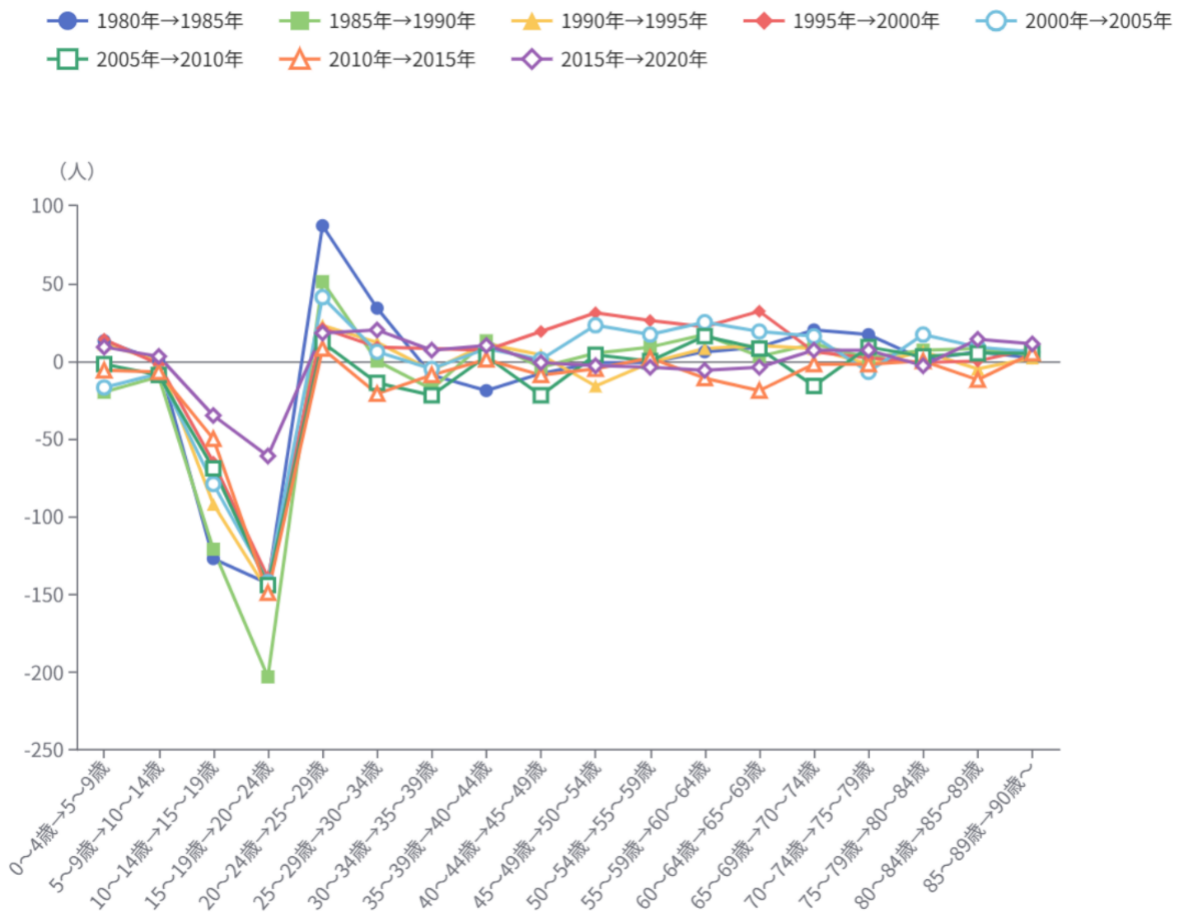
資料：住民基本台帳人口移動報告

### 3-2 年齢階級別の人口動向分析

#### (1) 年齢階級別の人口移動の状況

長期的な年齢階級別の人口移動の状況を比較すると、「15～19歳から20～24歳」までの年代で大幅な転出超過となっており、高校や大学への進学、就職に伴う転出の影響が大きいと考えられます。「20～24歳→25～29歳」にかけては転入超過となっており、大学卒業後等の段階で本村へ戻ってくる傾向が見られます。

図表 年齢階級別純移動数の推移（時系列分析）



資料：「地域経済分析システム RESAS—人口増減分析」（<https://resas.go.jp/population-sum/>）

「年齢階級別純移動数の時系列分析」（出典元：総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきデジタル田園都市国家構想実現会議事務局作成）を加工して作成

## (2) 転入転出の状況及び純移動数

### ① 転入・転出と純移動数

令和6（2024）年における転入・転出と移動数をみると、転入数は71人、転出数は92人で、21人の転出超過となっている。

転入元・転出先はともに県内（通勤通学率10%圏外）が最も多く、転入数26人、転出数27人となっている。

通勤通学率10%圏とは、常住地における通勤・通学者数に占める、野田村で従業・通学する数の割合が10%以上の地域をいい、本村においては、久慈市が該当する。

図表 野田村の転入・転出と純移動数（令和6（2024）年）

	転入数	転出数	純移動数
県内（通勤通学率10%圏内）	14	16	-2
県内（通勤通学率10%圏外）	26	27	-1
県外（東北）	9	25	-16
県外（東北以外）	22	24	-2
合計	71	92	21

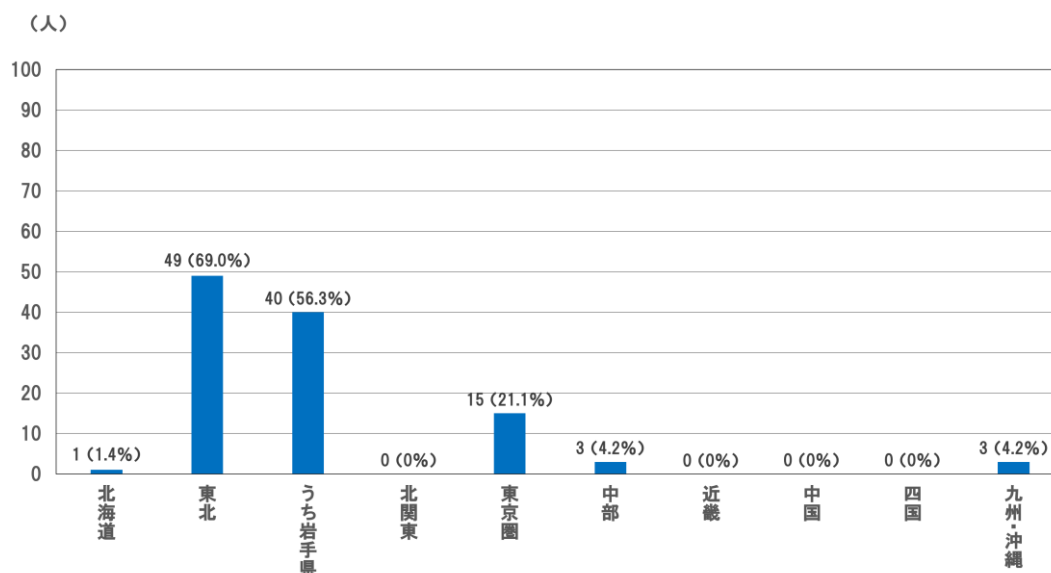
資料：住民基本台帳移動報告

## ②転入者の状況

本村への転入は、東北圏からの転入が最も多くなっており、そのうち6割近くが岩手県内からの転入となっている。続いて、東京圏からの転入が約2割となっている。

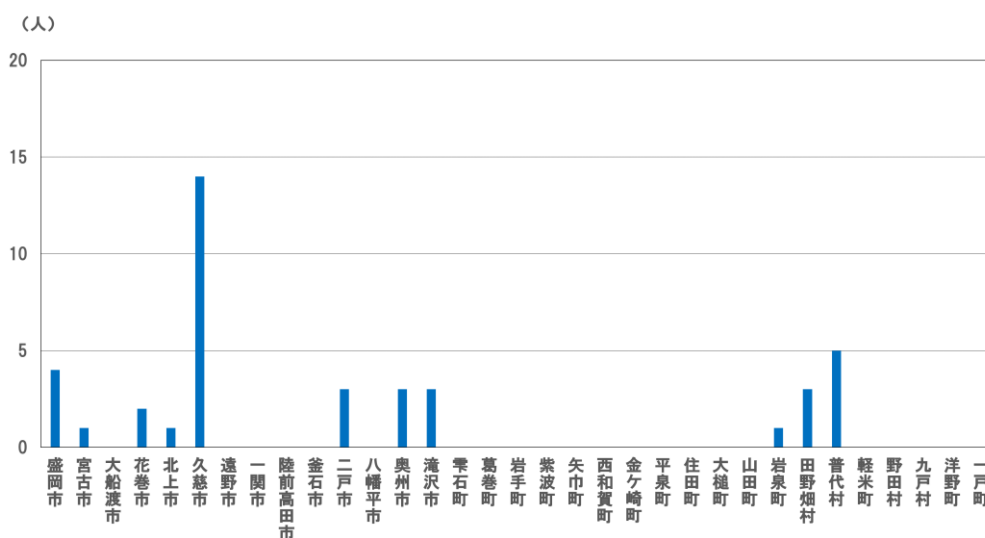
県内の市町村からの転入は、隣接する久慈市が最も多く、次に普代村、盛岡市と続いている。

図表 移動前の住所地別転入者数（地域ブロック別・令和6（2024）年）



資料：住民基本台帳移動報告

図表 移動前の住所地別転入者数（岩手県内市町村別・令和6（2024）年）



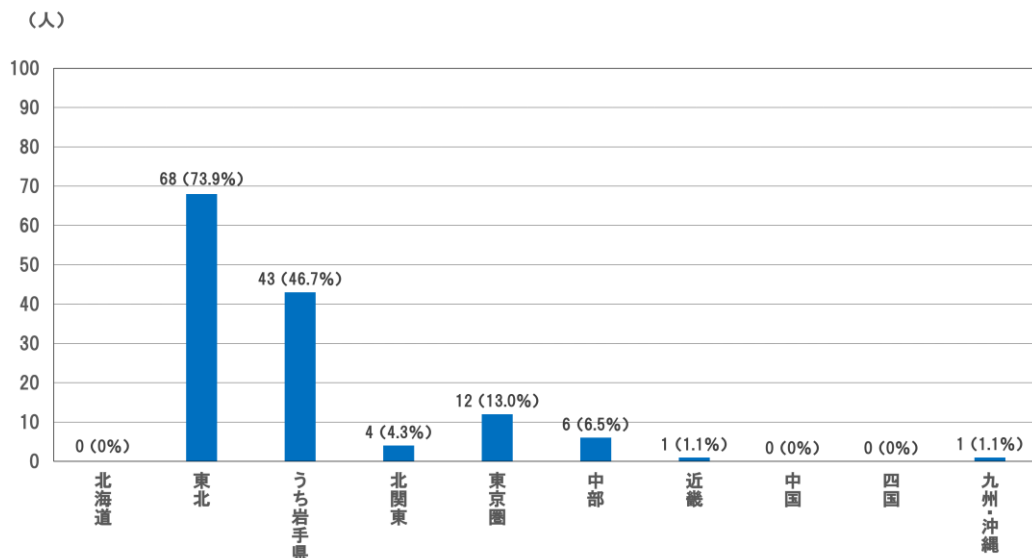
資料：住民基本台帳移動報告

### ③転出者の状況

本村の転出者数は、7割以上が東北圏への転出となっており、うち約6割が岩手県内への転出となっている。次に、東京圏への転出が3割弱となっている。

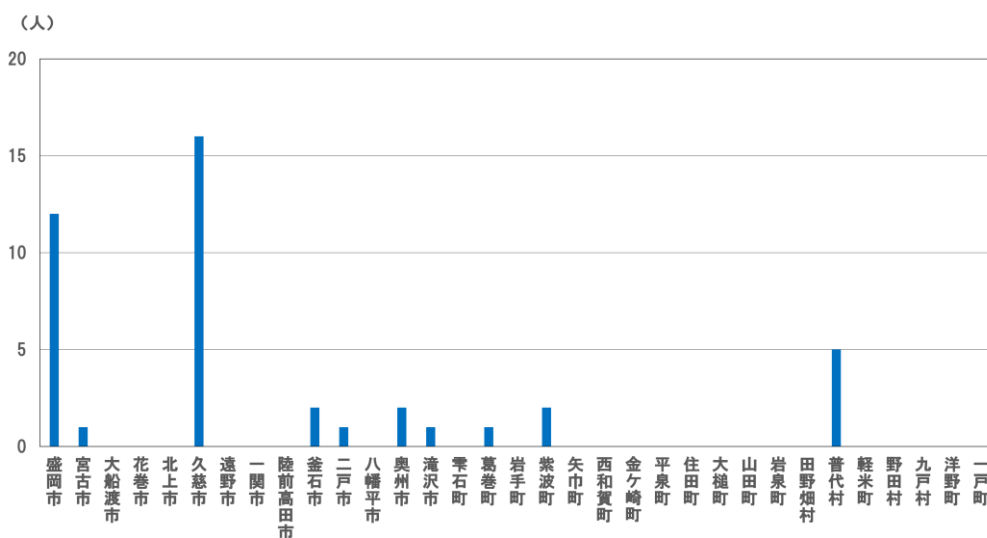
県内への転出者については、久慈市が突出して多く、次に盛岡市、普代村と続いている。

図表 移動後の住所地別転出者数（地域ブロック別・令和6（2024）年）



資料：住民基本台帳移動報告

図表 移動後の住所地別転出者数（岩手県内市町村別・令和6（2024）年）



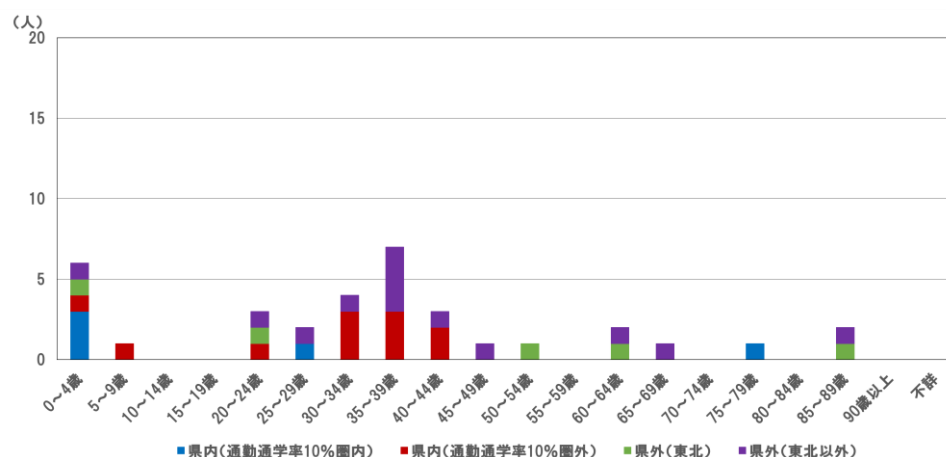
資料：住民基本台帳移動報告

### (3) 5歳階級別・性別転入転出数、純移動数の状況

5歳階級別・性別をみると、転入については、男性においては35～39歳、女性においては30～34歳が多くなっている。その内訳をみると、男性の35～39歳においては県外（東北以外）が半数を超えているが、女性の30～34歳においては、県内（通勤通学率10%圏外）からの転入が多くなっている。

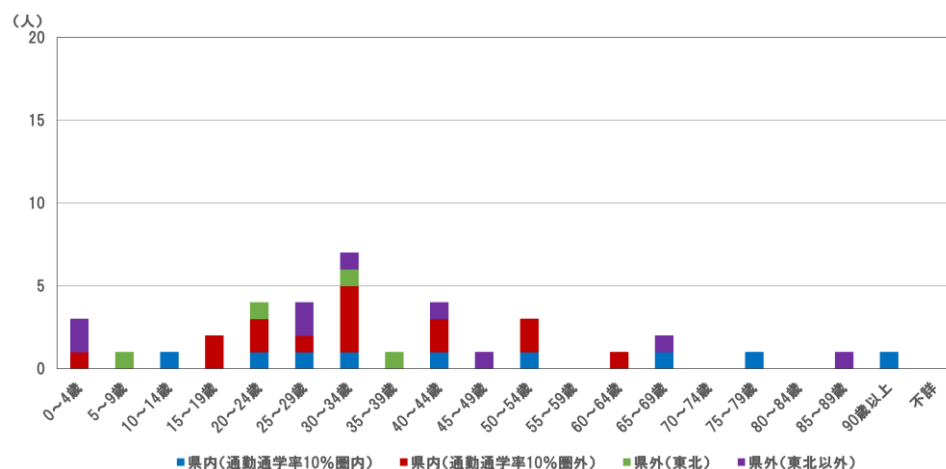
転出については、男性においては20～24歳、25～29歳が多くなっており、女性においては、15～19歳、20～24歳が多くなっている。その内訳をみると、男性においては、20～24歳では県内（通勤通学率10%圏外）と県外（東北以外）への転出が多く、25～29歳ではやや県外（東北以外）が多いものの、概ねどの区分も同程度となっている。女性においては、15～19歳では県内と県外（東北以外）への転出が多い一方、20～24歳では県外（東北）への転出が多くなっている。男性は、就職や転職に伴う県内外への転出が多いのに対し、女性は進学や就職、結婚に伴い県外へ転出する傾向が高いと推測される。

図表 5歳階級別転入数の状況（男性・令和6（2024）年）



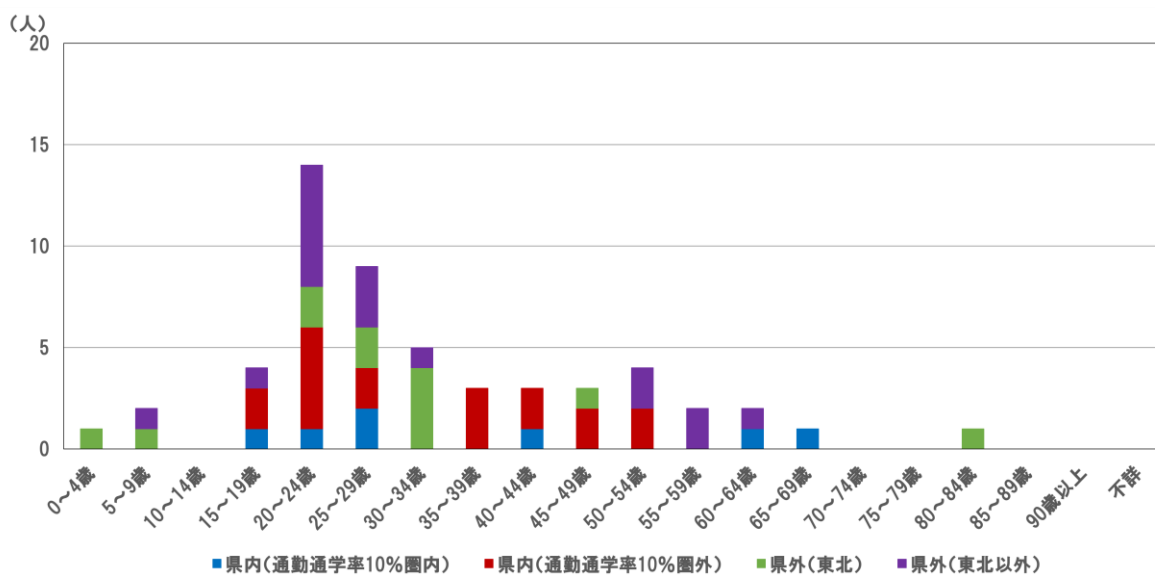
資料：住民基本台帳移動報告、住民基本台帳に基づく都道府県及び市区町村別詳細分析表（2024年）

図表 5歳階級別転入数の状況（女性・令和6（2024）年）



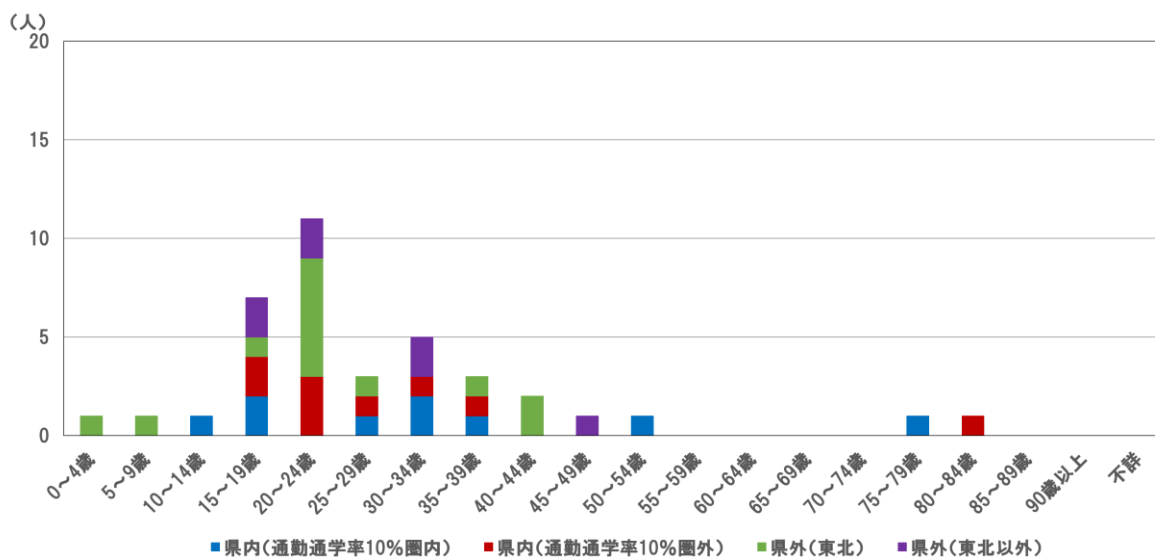
資料：住民基本台帳移動報告

図表 5歳階級別転出数の状況（男性・令和6（2024）年）



資料：住民基本台帳移動報告

図表 5歳階級別転出数の状況（女性・令和6（2024）年）



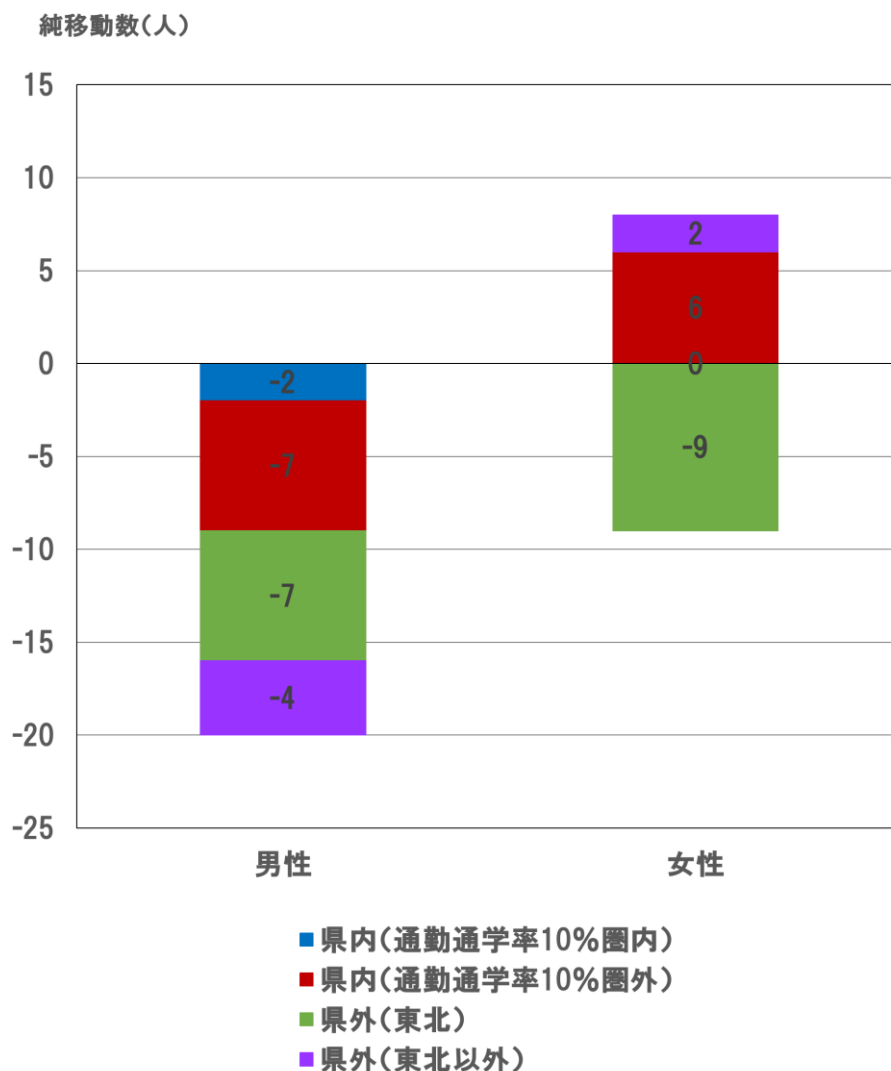
資料：住民基本台帳移動報告

本村の地域4区分別の純移動の状況を見ると、男性においては県内（通勤通学率10%圏外）及び県外（東北）への転出が最も多くなっている。女性においては、県内（通勤通学率10%圏外）及び県外（東北）への転出が多く、男女ともに県外（東北）からの転入を上回っている。

5歳階級別にみると、男性においては、20～24歳、25～29歳において、大幅な転出超過となっています。女性においては、男性と比べどの年代においても転出超過の傾向にあるが、15～19歳、20～24歳、25～29歳において、大幅な転出超過となっている。

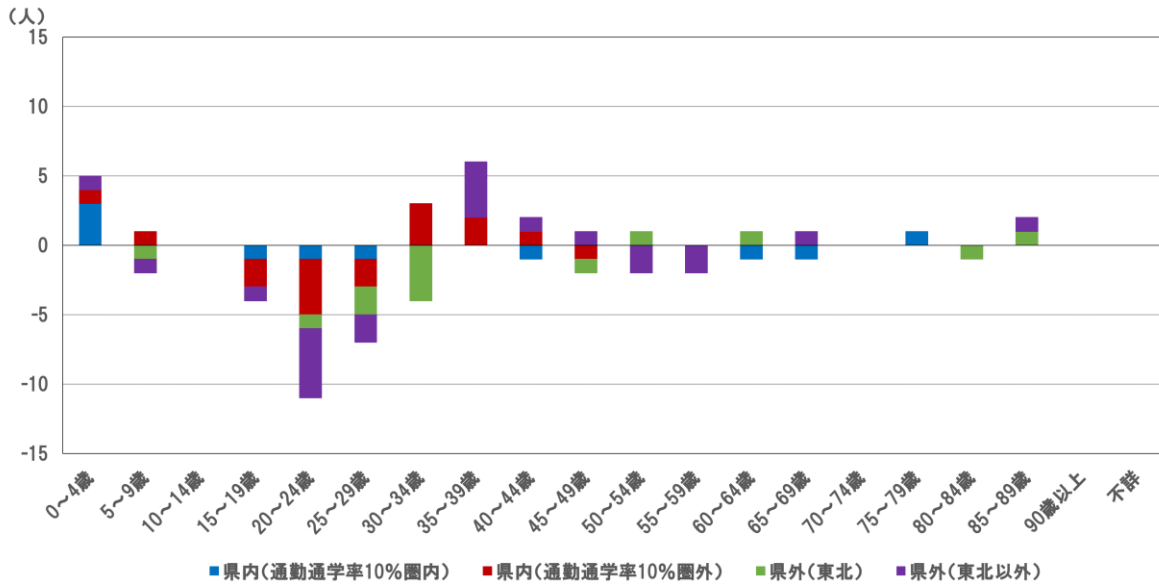
地域ブロック別にみると、男性は県外への転出が多い傾向があるのに対し、女性は県内（通勤通学率10%圏内）への転出が多い傾向となっている。

図表 野田村の純移動（令和6（2024）年）



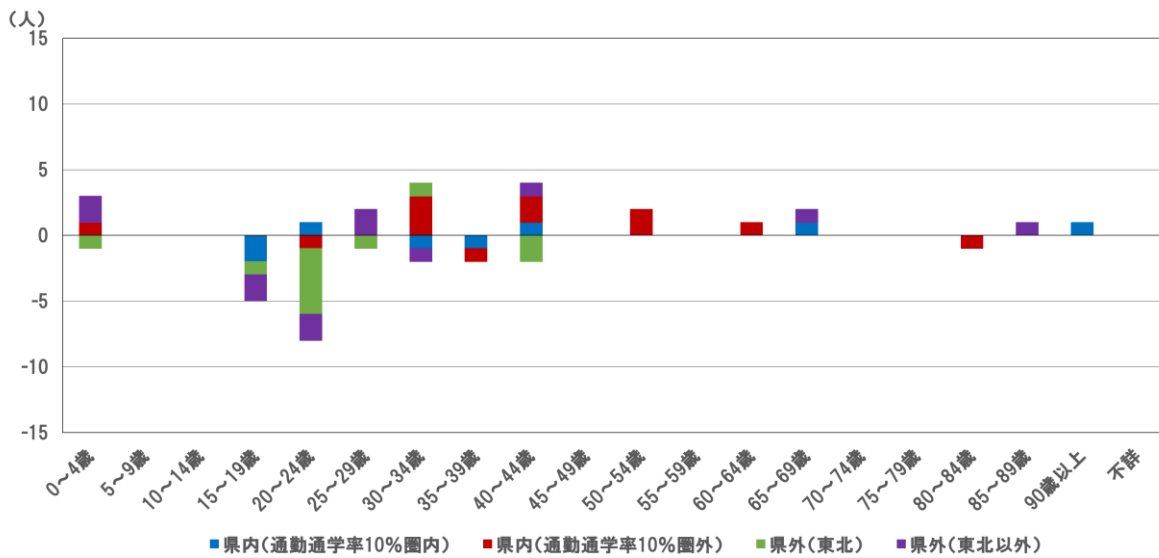
資料：住民基本台帳移動報告

図表 5歳階級別純移動の状況（男性・令和6（2024）年）



資料：住民基本台帳移動報告

図表 5歳階級別純移動の状況（女性・令和6（2024）年）

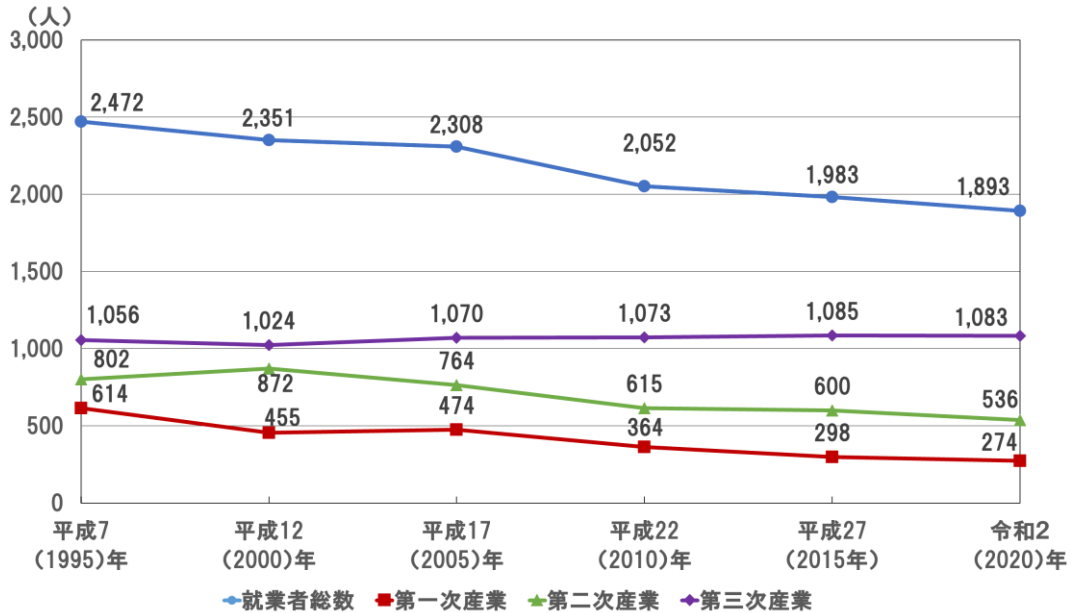


資料：住民基本台帳移動報告

### 3-3 産業別就業・雇用に関する人口分析

本村の産業別就業人口を見ると、第一次産業及び第二次産業は減少傾向にあるが、第三次産業は緩やかな増加傾向にある。村全体の就業人口は減少傾向が続いており、雇用が減少していることが読み取れる。

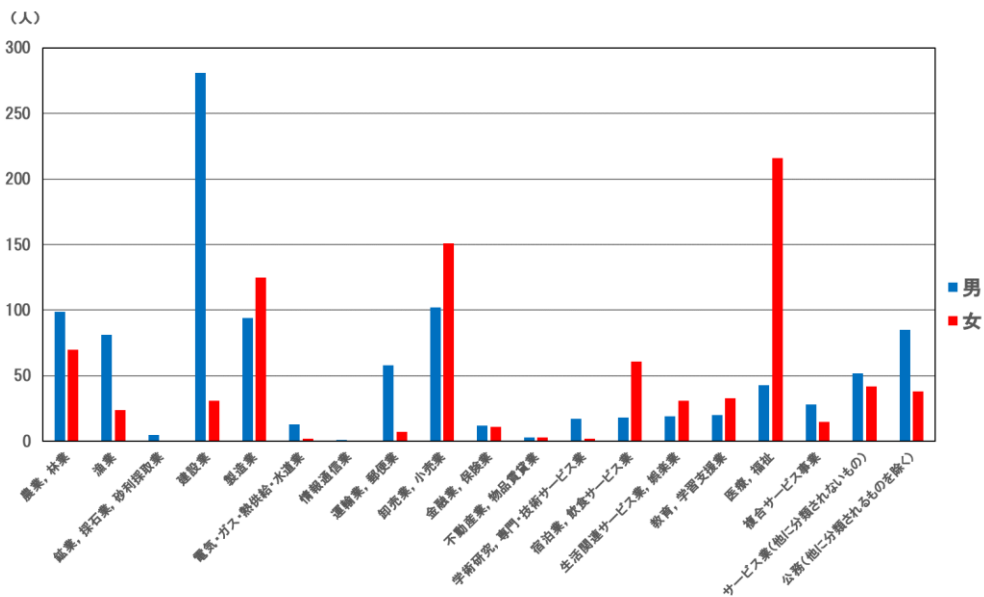
図表 産業別就業人口（15歳以上）



資料：国勢調査

男女別産業人口を見ると、男性は建設業の就業者が最も多くなっており、次に卸売業、小売業、農業、林業が多い傾向にある。女性は、医療、福祉の就業者数が最も多く、次に卸売業、小売業、製造業が多くなっている。

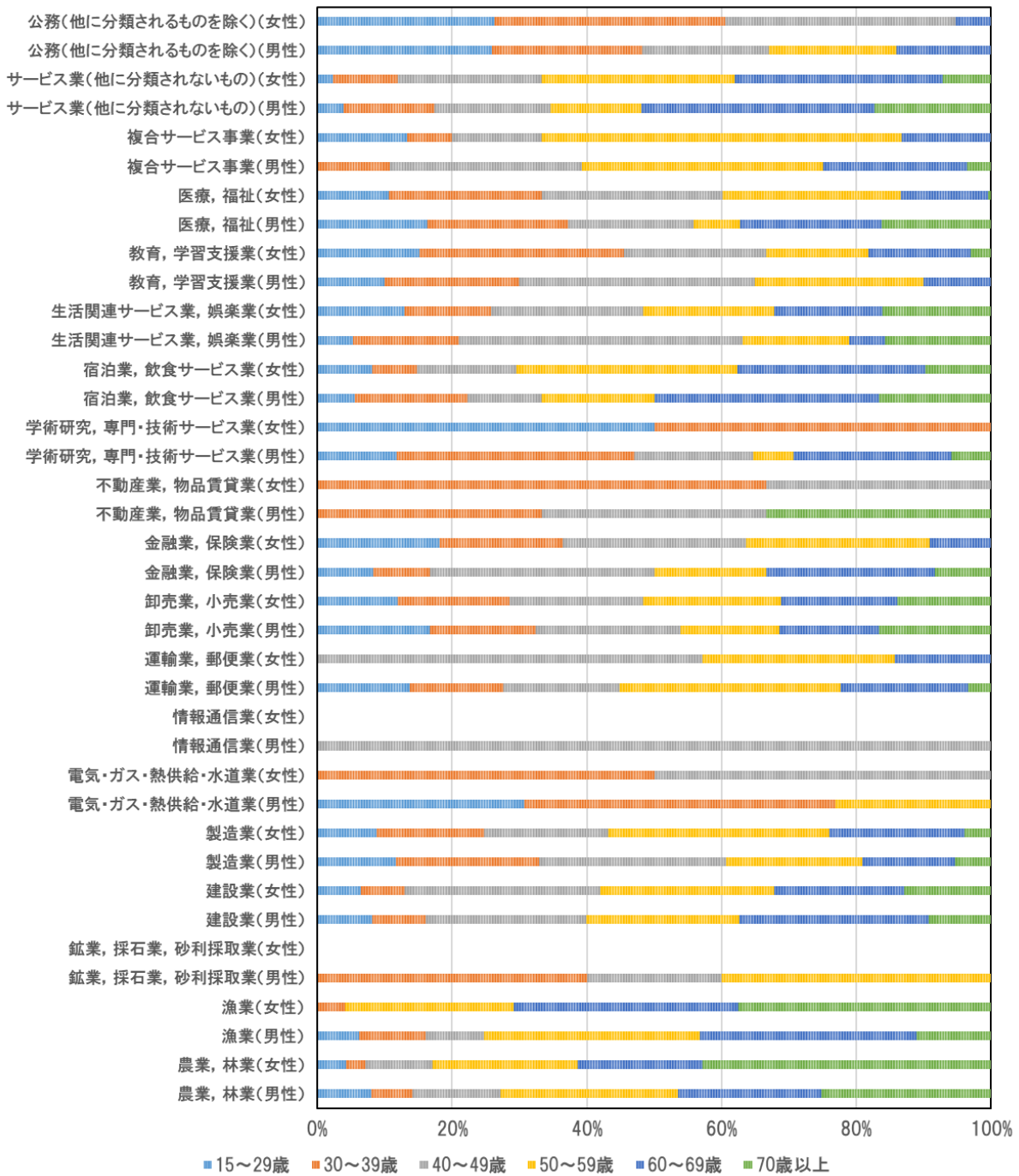
図表 男女別産業人口（令和2（2020）年10月1日現在）



資料：国勢調査

主な産業別に男女別就業者の年齢階級を見ると、他の産業と比較して、農業・林業・漁業等の第一次産業における60歳以上が占める割合が男女とも半数近くを占めており、高齢化が進んでいることが分かる。

図表 年齢階級別産業人口



資料：国勢調査

## 4 人口の将来展望

### 4-1 現状及び目指すべき将来の方向

#### (1) 現状と課題の整理

本村においては、昭和45（1970）年までは人口が増加傾向にありましたが、その後減少傾向に転じており、年少人口及び生産年齢人口の減少が進む一方で、老年人口が増加している。令和32（2050）年には2,104人まで減少することが予測されており、将来的により一層の高齢化及び少子化が進むとされている。

この人口減少の背景としては、生産年齢人口の進学や就職・結婚により近隣都市へ流出した後、本村へ戻ってきていないことが考えられる。

合計特殊出生率は令和5（2023）年に1.40と全国平均及び県平均より高い水準にある一方、特に20代～30代前半の既婚率が低い現状にあることから、晩婚化や未婚化が進んでいることも人口減少の一因と捉えられる。

農業・林業・漁業等の第一次産業を基礎とする本村の産業についても、就業者の高齢化や就業人口の減少が進み、後継者不足への対応が課題となっており、今後、人口減少が進むと、労働力不足の深刻化及びそれに伴う生産量の低下が懸念されるとともに、個人消費、地域内消費の縮小による地域経済の縮小も懸念される。

さらに、高齢化の進行により医療・福祉や公共交通機関へのニーズが高まる一方で、それを支える人材不足、財政負担の増大なども、今後起こりうると懸念される。

このような状況の中、村民が望む野田村の未来の姿としては、豊かな自然が守られるとともに、産業が発展し、安定した雇用が確保されており、かつ子育てしやすい環境や交通の利便性、商業集積が図られたまちが求められている。

#### (2) 目指すべき将来の方向

人口減少を正面から受け止め、人口規模が減少しても地域経済の成長や地域社会を維持するために本村が目指すべき将来の方向として、次の3つの方向を示し、取組を進めていくこととする。

##### ①産業振興により地域における安定した雇用を創出する ～人口の流出減～

本村の特徴である豊かな自然や食などを活かした産業の発展を図るとともに、第一次製品の生産量を増やすことで雇用の創出を目指し、野田村で働きたい若者の雇用の確保を推進する。

##### ②若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶えるとともに時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する ～暮らしやすい村づくり～

本村で多くの人が子どもを生み育て、住み続けることができるよう、若い世代にとって魅力ある住宅を確保するなど、多様化するニーズにこたえ、野田村に住みたいと考える若い世代の様々な希望を叶える。

また、時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する。

さらに、本村に住むだれもが、いつまでも安心して暮らすことのできるよう、住民同士が支え合うとともに、村内外の人々が集い、地域が連携し、高め合うコミュニティの形成を実現する。

##### ③地域への新しい人の流れをつくり出す ～人口の流入増～

本村が有する豊富な地域資源を活用し、その魅力を高め、広く発信していくことにより、人々が集い、住まう、交流のあるまちを実現する。

#### 4-2 将来人口の推計

本村の将来人口は、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」といいます。）の推計によると、令和 22（2040）年には 2,667 人になると見込まれており、更に令和 32（2050）年には 2,104 人まで減少すると予測されているが、この推計は何ら対策を講じなかった場合の人口推計である。

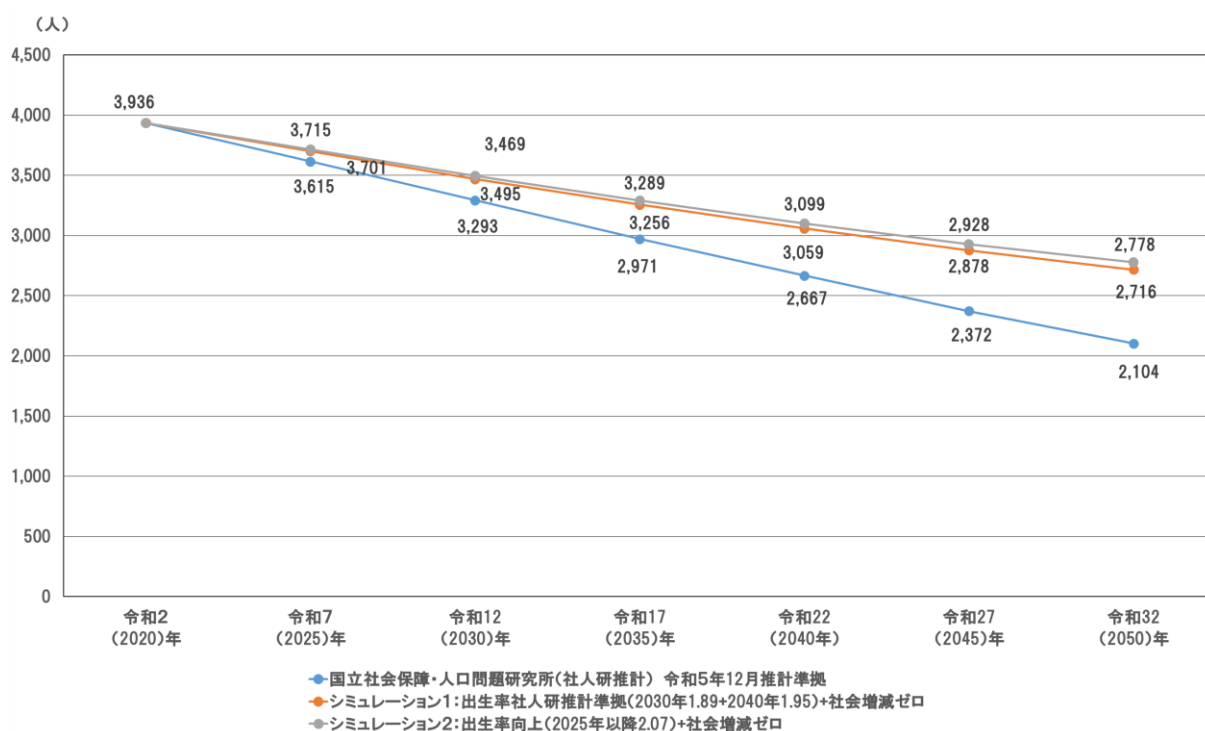
そこで、本村の将来人口に及ぼす自然増減や社会増減の影響を分析するため、社人研推計を準拠し、以下の 2 つの仮定を用いてシミュレーションを行ったところ、令和 32（2050）年において、シミュレーション 1 では 2,716 人、シミュレーション 2 では 2,778 人となった。いずれも社人研推計から 600 人以上の増加が見込まれるが、シミュレーション 1 とシミュレーション 2 において、大幅な変化が見られないことから、出生率の上昇と比較して、社会増減の方がより将来人口に対して大きな影響を及ぼすものと見込まれるところ。

図表 シミュレーションの内容

シミュレーション 1	社人研推計準拠において、令和 7（2025）年以降、社会増減ゼロが継続し、かつ出生率が社人研推計による見込値（令和 12（2030）年 1.89+令和 22（2040）年 1.95）に達した場合
シミュレーション 2	社人研推計準拠において、令和 7（2025）年以降、社会増減ゼロが継続し、かつ出生率が国が示す人口置換水準※である 2.07 に達し継続した場合。

※人口置換水準とは、人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率の水準のことをいう。

図表 社人研推計に基づく将来人口のシミュレーション



### 4-3 人口の将来展望

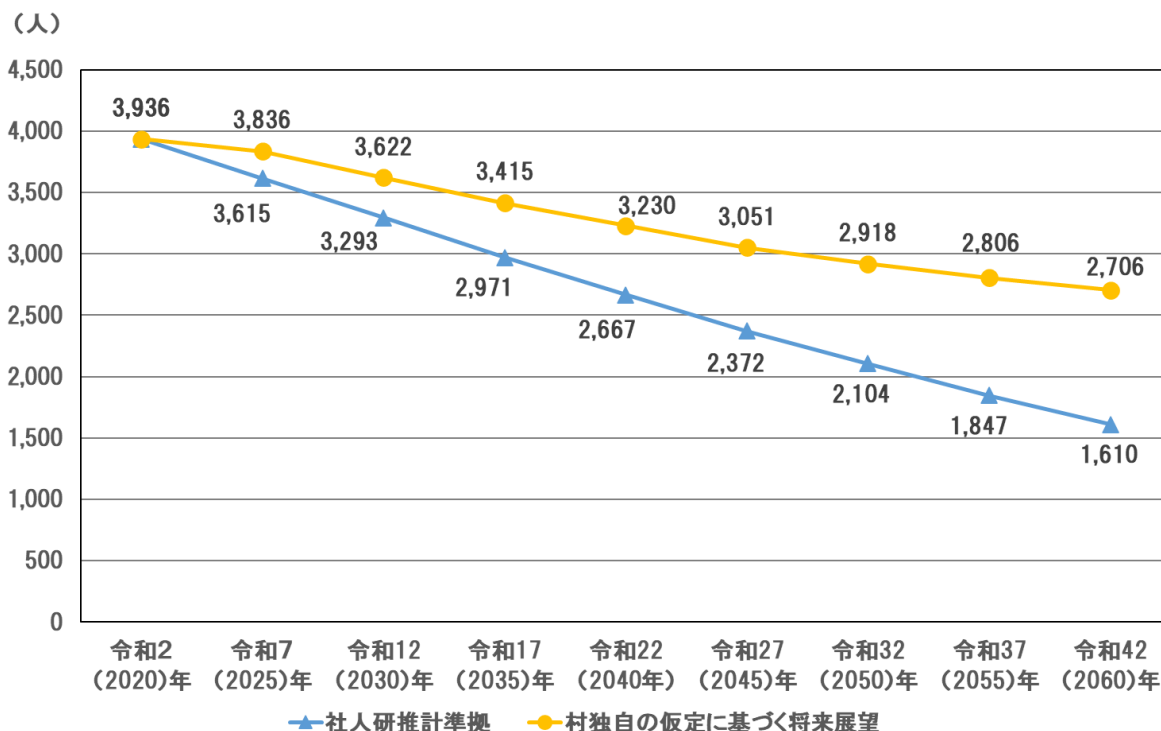
本村の将来人口は、社人研推計や社人研推計を準拠したシミュレーションのいずれの結果においても、令和 32（2050）年に 3,000 人を割り込むことが予測される。

本村では、人口減少が続く事態を正面から受け止め、人口規模が縮小しても地域経済の成長や地域社会を維持できる野田村をめざし、「野田村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を推進することにより、次の仮定を実現し、令和 22（2040）年に 3,230 人、令和 32（2050）年に 2,918 人、令和 42（2060）年に 2,706 人の人口を確保することを目指す。

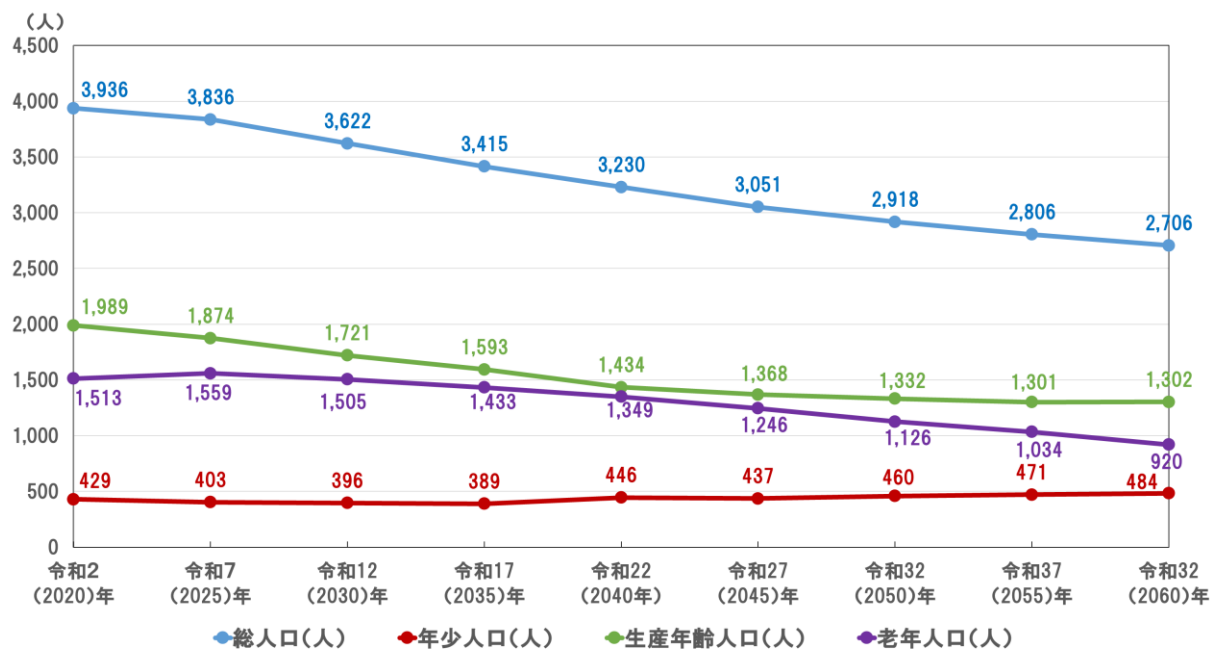
#### <将来展望に関する仮定>

- ・ 令和 7 年度の人口について、社人研推計の推計値（3,615 人）と実際に村の住民基本台帳に登録されている数値（3,836 人）に差が生じていることから、令和 7 年度の数値について、村の住民基本台帳の数値を採用し、人口推計を行う。
- ・ 合計特殊出生率は、令和 7（2025）年に 2.6 まで上昇し、以降も同水準を継続。
- ・ 社会増減ゼロ。

図表 総人口の将来展望



図表 年齢3区分別人口の将来展望



	令和2 (2020)年	令和7 (2025)年	令和12 (2030)年	令和17 (2035)年	令和22 (2040)年	令和27 (2045)年	令和32 (2050)年	令和37 (2055)年	令和42 (2060)年
総人口	3,936	3,836	3,622	3,415	3,230	3,051	2,918	2,806	2,706
年少人口	429 (10.9%)	403 (10.5%)	396 (10.9%)	389 (11.4%)	446 (13.8%)	437 (14.4%)	460 (15.7%)	471 (16.8%)	484 (17.9%)
生産年齢人口	1,989 (50.5%)	1,874 (48.9%)	1,721 (47.5%)	1,593 (46.7%)	1,434 (44.4%)	1,368 (44.8%)	1,332 (45.7%)	1,301 (46.4%)	1,302 (48.1%)
老年人口	1,513 (38.4%)	1,559 (40.6%)	1,505 (41.6%)	1,433 (41.9%)	1,349 (41.8%)	1,246 (40.8%)	1,126 (38.6%)	1,034 (36.8%)	920 (34.0%)

※令和2年の国勢調査結果においては、年齢不詳（5人）がいるため、「総人口」と「年少人口・生産年齢人口・老年人口の合算値」の値が異なるもの。

#### 4-4 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察

##### (1) 産業経済の状況

###### ●就業人口の減少により、地域の産業・経済の縮小等が予測される

本村は、農業・林業・漁業等の第一次産業が盛んであるが、近年、就業人口は減少傾向にあり、平成22(2010)年から令和2(2020)年の10年間に90人減少した。第三次産業では増加傾向にあるが、第二次産業においても就業人口の減少傾向が見られ、総じて就業人口が減少していることから、地域の産業・経済の縮小などが予測される。

##### (2) 地域の産業における人材(人手)の過不足状況

###### ●生産年齢人口の減少に伴う従業員の高齢化や後継者不足により、技術や事業の伝承が困難となるとともに、医療、福祉、介護に携わる専門の人材の不足が懸念される

令和2(2020)年に人口の5割を超えていた生産年齢人口は、令和30(2050)年には4割程度まで低下するとされており、生産年齢人口の減少に伴う従業員の高齢化や後継者不足により、技術や事業の伝承が困難となることが予測される。また、農業・林業・漁業等の第一次産業における高齢化が進んでおり、担い手の育成が課題となっている。

加えて、後期高齢者の増加により、医療、福祉、介護の需要が増加すると見込まれる一方で、それらに携わる専門の人材の不足が懸念される。

##### (3) 都市構造に関する状況

###### ●高齢者の増加により地域公共交通の需要が高まる一方、利用者の減少による経営への影響が予測される

本村には、三陸鉄道北リアス線や、村営バスがあり、村の東端を国道45号が走っている。また、三陸沿岸道路野田インターチェンジが整備され、交通のアクセスが改善しているが、今後、高齢者の増加により地域公共交通の需要が高まることが予想される。一方で、人口減少に伴う生産年齢人口の減少は、通勤(通学)等の利用の減少につながり、公共交通機関の経営に影響を及ぼすと予測される。

##### (4) 公共サービスに関する状況

###### ●人口減少等の理由による税収の減収が見込まれる中、公共施設・インフラの効率的な維持管理・運営が必要となる

公共施設・インフラの老朽化への対応が必要となってきた中、施設の維持管理費、補修費の増大が大きな課題となっている。今後、人口減少等の理由により税収の減収が見込まれる中、より一層の効率的な維持管理・運営が必要となる。

##### (5) 地域の産業経済に与える影響

###### ●生産年齢人口の減少により、労働力不足と生産量の低下が懸念される

生産年齢人口の減少に伴い、労働力不足が深刻化するとともに、それに伴う生産量の低下が懸念される。また、総人口の減少により、個人消費、地域内消費が縮小し、地域経済の縮小等につながる懸念される。

(6) 住民生活に与える影響

- 人口の流出や高齢化による住民サービスの縮小、および地域活動の担い手の減少による地域社会の機能低下が危ぶまれる

転出超過に伴う人口の流出や高齢化により、小売や飲食、医療等の住民サービスが縮小し、日常生活が不便になる恐れがある。また、地域活動の担い手の減少も予測され、自治会や消防団といった地域の自主的な活動が低下し、地域社会の機能低下が危ぶまれる。

(7) 財政に与える影響

- 少子高齢化の進展による社会保障関連費の増加が見込まれる一方、生産年齢人口の減少による税収の減収が予想される

少子高齢化の進展にともない、医療費負担の増加や社会保障関連費の増加など、将来的に住民負担及び行政負担が増加することが見込まれる。一方、生産年齢人口の減少により、税収の減少が見込まれる。

## 5 おわりに

野田村人口ビジョンは、人口減少を緩やかにするための目指すべき将来の方向性と、本村の総人口が令和 42（2060）年に 2,706 人となる将来展望を示している。総人口は今（令和 7 年）より 1,100 人ほど少なくなるが、人口減少を増加に転じさせることはもとより、緩やかな減少を目指すことすら極めて困難と予測されている中、これを実現させるためには、多くの課題を解決していく必要がある。

本ビジョンで示す将来展望は、課題を解決するために行う施策を実施した結果を反映し、目指すべき目標人口として掲げたものである。その実現に向けて、本村では、人口減少対策や地方創生の取り組みを一体的に推進するため、「野田村総合計画」や「野田村まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、人口減少が続く事態を正面から受け止め、人口規模が縮小しても地域経済の成長や地域社会を維持でき、本村の恵まれた環境において村民のみなさんがいきいきと住み続けられるよう、地域のみなさんと共に取り組んでいく。